

第2項 「非行」とみなされる行為の変遷

第1項で、過去と現在の非行に対する認識の差異が明らかになった。「不良」、「非行少年」とは、決して個人の内的な特性が発露した結果としてのみ語ることはできず、社会の構成員がある行為に対して「非行」というラベルを貼ることにより可視的になるといえよう。

第2項では、若者のどのような行為に対して「非行」というラベル付けをするかについて、個々の若者の行為をピックアップする。具体的には、「1.ファッション」、「2.飲酒・喫煙」、「3.学校生活・交友関係」に関して被調査者が言及している箇所をとりあげ、被調査者が若者であったときと現在の若者に対するイメージの差異を検討していく。なお、以下のインタビュー結果に基づいて検討していく中でも再度明記するが、大人は、現代の若者のファッションや飲酒・喫煙行為に対して、即、「非行少年」、「不良」というレッテルを貼る訳ではない。過去に明示的に非行少年、不良とカテゴライズされた外見上の諸特徴や行為だけでは、現在は峻別できないようである。では、大人は、現代の若者のどのような行為様式に対して逸脱視、異端視するのであろうか。この点に関する被調査者の見解について、「4.異端視される現代の若者の行為」としてまとめる。

1.ファッション

ファッションに関しては、ヘアスタイル、ピアス、服装に関してトピックとしてインタビュー中にあがった。以下、個々のトピックについてみていく。

1-1. ヘアスタイル

[Scene.1-6] グループ7

R1：そういう子（髪の毛を染めている子）を見て別に、あの子は不良だとかってのは思わない……？

S4：みんながみんな染めてるし。

S3：ねー。これも流行なんかねーっていう感じでしょう。今はね。

S4：だって大体……。

S3：昔はそういう人あんまりいないもんね。

S4：高校生ぐらいになるともう、普通の家庭の子だって、染めたりしてるでしょう。

R1：そうですね。

S4：だから、髪の毛だけじゃ判断できなくなっちゃった。

「Scene.1-7」 グループ3

S4：うちの長男の場合は、髪、ピアスとか……。 (高校) 2年のころブリーチをしまして……。私もお父さんも、最初は「軽くなっていいんじゃない」なんて言ってたんですよ。でも、学校でダメだって言われて、それから検査の前の日にいつもブローネ (毛染め剤) を買いに行かされて、一生懸命しのいでたみたいですよ。だから、学校っていうところがなければ、春休みとかなら、悪くないと思ったんですけど。

R2：髪の毛を染めるっていうのは、そんなに、不良ってことに直結するわけではないと？

S1：昔ほど気にしなくなったよね。そういう髪の毛染めてる子とか……。今ってかえって普通の子の方が事件起こしたりするじゃない？

R2：少し染めててくれた方が安心、みたいな？

S1：そうそう。自己表現ができるっていうか、そういう子の方がねえ……。普通の子は何考えてるか分からないって子もいるからね。

R2：うん。

「Scene.1-8」 グループ2

S1：あとは、ポニーテールなんかもしてたね。男の子は、よくいうボンタン？

S3：そうそう、あーいうのはやったよね。

R1：見た目判断できる部分が多かった？

S2：そうね、多かったわね。

S3：でも、かといって、そういう人が本当に悪いかっていうと、そうでもなかったり。

S2：髪の毛染めたりってのは、昔はなかったもんね。本当に珍しいっていうか。

ヘアスタイルに関しては、以前は「昔は (髪の毛を染めている人は) いなかった」 (Scene.1-6、

1-8)、「不良はポニーテール」(Scene.1-8)であったのが、今は「みんな(髪の毛を)染めている」(Scene.1-6)、「流行である」(Scene.1-6)、「昔ほど気にしなくなった」(Scene.1-7)、「自己表現ができているように見える」(Scene.1-7)と語られている。このように、以前は髪の毛を染めたり、奇抜なヘアスタイルをとったりするだけで「非行少年」、「不良」とみなされていたようだが、現在ではそれだけで「非行少年」、「不良」とみなされることはなく、逆に自己表現の一手段としても認識されている。ここでも、若者のどのような行為をもって「非行少年」、「不良」とみなすかが、大人による社会文化的期待と不可分であることが分かる。

1-2. ピアス

「Scene.1-9」 グループ3

S2：うちのお姉ちゃん(長女)は、ピアスやっちゃったじゃない？高1の冬。やってきちゃったのよ。でも、そんな派手なのぶら下げてるわけじゃないし…。最初はね、ビックリしちゃったのよ、「なんなのよ高校1年生になったばかりなのに…」って。ましてや、「(学校で)ダメって言われてることをやる子だったのかしらこの子は…」って思ったの。でもなんか本人が、「別に人に迷惑かけないし、ジャラジャラしたのつけてるわけじゃないし、いいじゃん！」って言われたら、「あっ、そうだよな」って。「これも個性だし、迷惑かけてるわけじゃないし」って思ったら、私も納得しちゃってさ。学校でピアスはダメだって私は知らなくて。そしたら、高校で見つかって…。先生に何か言われたみたいなんだけど、うちの子は思ったことを素直に言っちゃったみたいなのね。そしたら、先生は「お母さんは何て言ってますか？」って、で、私はひたすらダメダメダメって言ってたほうだから…。学生は学生なりの規則は守るようになってきてきたから…。そしたら、先生は「もう一度お母さんと相談してきてください」って言ったらしいのよ。で、二度目。今度は(ピアスを取り上げられちゃったのね。でもうちの子は曲げなかったのよ。自分でこうだって言ったらもう曲げないから…。で、「私は絶対誰にも迷惑かけてない」って先生とやりあっちゃったのよ。でも、何とか私が言い聞かせて…。そしたらやめた。

S4：うちはずっと、3年まで(ピアスを)してて…。家から車で送るときなんかは、家を出るときはしてないのに、車に乗ってからするのね。やっぱり父親とかおじいちゃんとかの手前、家ではしないんだけど、車に乗ってからポケットから出してして、帰りも車から降りるとはすすのよ。

S2：たまたま、うちの子はアメリカに行ってたから、「なんで高校生なのにピアスとかネクセスがダメなの」って言うんですよ。あっちではみんなしてるから。でも「ここは日本だから」っていい聞かせるんですけどね。

S4：担任の先生がね、私、ああ先生ってこうなんだって思ったんですけど、先生から3年のとき電話がかかってきて、「あの、〇〇君、耳にあいてるんですよ。僕が困るんですよ」って言うんですよ。担任の先生が指導の先生に指導されちゃってるんですよ。なんか、「僕が困る」ってのを聞いたときに、なんか怖いなって…。

R1：先生が…。

S4：そうそう、一応、学校の規則の中で、担任の先生も、自分の気持ちで「やっちゃダメだよ」って言うんじゃないくて、「僕が困るんですよ」って…。それって、えーって思っちゃうんですよ。

R2：お母さん方が学生だった時に、ピアスをするってことは…。

S4：ピアスってあったっけ？

S3：時代が違うでしょ。

ピアスに対する認識も変化してきている。Scene.1-9にあるように、被調査者が若者であったころは、「ピアスなんかはなかった」(S4)、「時代が違う」(S3)などと語られている。ところが、現在では「人に迷惑をかけていないからいいか」(S2)と、ピアスすること自体が、即「非行」とはみなされていないことが分かる。

1-3. 服装

[Scene.1-10] グループ3

S2：お化粧ももう全然普通でしょ。うちの子が高校生のときは、もうお化粧してたから。学校のカバンに化粧ポーチが入ってるの。

S1：昔は、化粧をしてたら不良だったよね。眉毛なんか描いてたら不良だったよ。ものすごく不良の概念が変わってきた。

S3：で、お化粧もきれいにお化粧するから、おかしくないんだよね。

R1：お子さんが高校生のときにお化粧をし始めたときは、気になりました？

S2：うん、気になった。だって、カバンには教科書は入れなくても、化粧ポーチは必ず入ってるもんね。でも、気になったけど、そのうち、これの時代なのかなあって。マニキュアしたりもしてたけど。私のときなんかは、何にもなかった時代だったから、就職するときは制服で行ったもんね。で、6月くらいまで高校の制服で行って、初めてのお給料で、洋服とか化粧品とか買って。

S1：そうそう。

「Scene.1-11」 グループ 6

S2：昔は分かりやすかったよね。標準の服があって、それより長くなる、短くなるっていう子たちが、普通でなかったかもしれない。でも、今は、みんなが標準を破ってるでしょ？

R1：標準が何か分からない？

S2：そうそう。制服がどの丈で、こういうものだっていうのが、あるようだけど、実際ないようなもの。みんなが崩してるから、分かりづらいよね。

「Scene.1-12」 グループ 2

R1：昔、皆さん自身が学生だった頃の不良とか、非行行為っていうのはどんな感じでしたか？

S1：昔はねえ。やっぱりスカートが長いとかね。

S2：スケ番がいてねえ。

R1：そのスケ番っていうのは、どんな感じだったんですか？

S2：スカートが長くて、カバンを薄くして。

S1：あとは、ポニーテールなんかもしてたね。男の子は、よくいうボンタン？

S3：そうそう、あーいうのはやったよね。

R1：見た目で判断できる部分が多かった？

S2：そうね、多かったわね。

S3：でも、かといって、そういう人が本当に悪いかっていうと、そうでもなかったり。

S2：髪の毛染めたりってのは、昔はなかったもんね。本当に珍しいっていうか。

「非行少年」、「不良」とみなされる服装にも変化が見られる。以前は、女子はスカートが長

いもの、男子はボンタンを履いているものが典型的な不良の服装とみなされていた。それは、Scene.1-11 の「まず標準があり、標準から外れたら、もう不良」という発話にも特徴的である。一方、現在では、「みんなが規定を外している」(Scene.1-11) とみており、「普通がなくなった」(Scene.1-11) と感じているようである。

被調査者が若者であった頃は、(髪型・服装等の)「標準」、「『普通』という基準」が手触りのあるものとして共有され、そこからの逸脱こそが「非行少年」、「不良」とカテゴライズされる大きな要因となっていた。ある意味、非行少年、不良が明示的であったとも言える。しかし、現在の若者の服装や髪型に対する印象としては、非行少年と峻別すべき明確な基準が存在せず、そのことが逆に非行少年を不明瞭なものにしている。

このことは、「化粧」についても同様である。「化粧をすること」は、以前は若者文化にはみられなかった行為であったようだ。例えば、「若いのに」、「時代なのかな」、「私たちの時代は就職して始めて化粧をした」といったように、若者が化粧をしていることに対し、被調査者は驚きを表している。しかし、「今は化粧をするのも、もう普通」といったように、それほど異端視しているわけではないことが分かる。

以上、ファッションと非行とみなされる行為との歴史的変遷について検討してきた。以前は、明示的で、共有された「規則」や「標準」があり、それらに反することをしたり、周囲と違うことをしたりすることで非行少年、不良と見られていたようである。ところが現在では、「標準」とは異なる服装や髪型をとることは、「逸脱」と認識されるのではなく、むしろ、「個性の表現」とう価値観で判断されている。周囲と変わったことをしていたとしても「見た目だけでは判断できない」(Scene.1-6)、「それだけでは不良に見えない」(Scene.1-7) ののである。このように、髪型や服装といった若者のファッションは、以前と異なり、非行少年、不良としてカテゴライズするためのリソースとはならないようである。

2. 飲酒・喫煙

飲酒や喫煙と「非行」に関する認識も、ファッションと同様に変化してきた。以下、Scene.1-13 ～Scene.1-17 に示すように、飲酒や喫煙は、被調査者が若者の頃には飲んだだけ・吸っただけで、「不良行為」であったのが、現在はそれだけでは「非行」とはみなされていないことが分かる。

「Scene.1-13」 グループ 4

S1：でも、家に友達を実際に連れて来るから。5人も6人も連れて来て泊まるもんだから、面倒

だからビールでもなんでも買ってきて渡しとくんです。「許可はしないよ」とか言って

「Scene.1-14」 グループ 9

S1：タバコ吸っているくらいじゃ今注意する人あんまりいないですね。

S2：家で吸っていたら「ダメだよ」とか言えるけれどね。

S1：外で吸っていても言わないんじゃないかな。

S2：高校生なんかもう平気でタバコ吸って歩いてますもんね。

「Scene.1-15」 グループ 6

S2：タバコなんかは、普通の子まで広がってるよね。学校によっても違うけど、「この子がどうして？」って思う子が吸ってたりしますもんね。

S4：普通になりつつあるね、そういうのが。で、普通って割と数が多いところが普通に入るんだけど、だから、普通になりつつあるよね。普通の位置がずれてきてる。

S1：普通ってないよな。

「Scene.1-16」 グループ 1

S1：だって、昔はやっぱりタバコ吸ったら不良だったもん。いきがって吸ったこともあるさ、でも、それは不良。今は、制服で平気な顔して吸ってるけど。

「Scene.1-17」 グループ 13

S2：私知ってる人の息子なんかね、喫煙とかね、吸ってるんですよ、でも、そのことをあとは別にどうってこと、ないわけですよ、その別に。

S1：罪悪感とかね。

S2：そんなに、荒れてるっていうのも感じない、し。

S1：だからなんていうかな、喫煙だけ、ね、飲酒だけで非行というのは、もう考えられない、
って私も思うんですね。ただそれにプラスして、やっぱ行動がね、喫煙してるグループの。

S2：うん。

飲酒に関しては、親が「買ってきて渡しておいた」り (Scene.1-13)、「飲酒だけでは非行とは考えられない」 (Scene.1-17) とみなされていることがわかる。喫煙に関してはさらに顕著である。以前は「(タバコを) 吸っていたら不良」 (Scene.1-16)、「いきがって吸っていた」 (Scene.1-16) とあるように、喫煙行為は非行少年、不良を可視的にするリソースだったようである。しかし、現在では「平気で吸ってる」 (Scene.1-14)、「タバコ吸ってるくらいじゃ (不良には見えない)」 (Scene.1-14)、「吸っている子の方が多い」 (Scene.1-15)、「どうってことない」 (Scene.1-17) とみなしていることがわかる。

3. 学校生活・交友関係

学校生活や交友関係に関しても、被調査者が若者であった頃と現在では「非行」の認識に差異が見られた。ここでは、まず、Scene.1-18 のインタビュー結果をもとに、夜遊び・深夜徘徊に関する考え方を示す。続いて、Scene.1-19～Scene.1-20 では、不登校や怠学に関する認識の歴史的差異について提示する。

3-1. 夜遊び・深夜徘徊

「Scene.1-18」 グループ3

S5：うーん、昔は、夜遅く出歩いてたら不良に見えたよね。

S4：そうね、でも、昔の感覚でいったら、うちの息子は本当に不良だよね。

S5：今じゃ、24時間営業のコンビニとかあるし…、昔だったらそんなところにたむろしてたら、不良少年、少女に見えたよね。今じゃもう慣れちゃって、夜遅くまであいてるし、親が行って来て、なんて頼んだりするから、一概にそうとは見えないよね。

S1：はあ。

ここに見られるように、以前であればコンビニに「たむろ」していたら不良であるとみなされていた。しかし、S5が「今じゃ、慣れちゃって」と語るように、現在では深夜に若者が出歩いていることだけで「非行」とは認識されないことが分かる。ここにも、非行少年、不良とレッテルを貼られる若者の行為が、社会的に、歴史的に変遷を遂げることが示されている。

3-2. 怠学・不登校

「Scene.1-19」 グループ 11

S1：非行・不良 vs. 誰か相手があつて、その人に、迷惑をかける、それはいままでの道徳に合わなかったり、社会に合わなかったり、法律に合わなかったり、するんだろうなと思う。例えば、不登校がおつたとして、それは不良少年でも非行少年でもないと思う。

S2：違うわな。ぜんぜん違う。不登校の子は、不良でも非行でもないと思いますわ。

「Scene.1-20」 グループ 13

S1：不登校だけでね、あの人はアウトローやと、というようなことはね、これは一概には言えないんで、いわゆる価値観なんだよな、その人の。価値観で、だからいわゆる体制、ちゅうかいわゆるこう普通の世間のその価値観うんぬんちょっとはずれたらもうアウトローということはね、これは今のあれでは言えないと思うんですよ。昔だったらもうそれで抹殺してた面があると思うんですけど、だから、これは非常にあの境界線ちゅうのが難しくてね。

S2：ああ。

現在では、不登校は「不良でも非行でもない」(Scene.1-19)、「それ(不登校)だけではなんとも言えない」(Scene.1-20)と認識しているようである。以前は、学校に行かないということは、逸脱としてみなされていた可能性がある。しかし、現在では、「不登校」という概念も社会に流通するようになり、「非行少年」、「不良」とは別の解釈枠で判断されていることが分かる。

4. 異端視される現代の若者の行為

では、以前のように外見などの明示的な逸脱行為が、逸脱視されなくなった現代、大人は若者のどのような若者を異端視するのであろうか。このような観点に対する被調査者のコメントについて、Scene.1-21～Scene.1-25 にまとめる。

[Scene.1-21] グループ 9

S1：今すごい難しいところですよ…ただ格好だけっていう子もいるし。格好は普通なのに、やるのがすごいという子もいるし…

R1：ああ、見かけだけではなかなか判断がしづらいというか。どうですか？

S1：髪の毛茶色いから悪い人とか思っているけど全然、今そういう…。昔って結構不良って髪の毛まっちゃっちゃにしたり、バイクに乗っていたりすると、そういうのが非行っていうか、悪い子っていう風にあれしちゃうけど、今はそういうのではないと思うんですよね。

R2：じゃあ例えば髪を金髪にしたり、バイクに乗ってわんわんやってもそれがイコール非行である、もしくは反社会的な行為であるということに直接は結びつかない

S1：結びつかないですよ。

S2：一見見て、不良っぽいなとは思いますがイコールその子達が悪いことをしているんじゃないかなって感じは今はあんまり受けないですよ。

S1：そう。

繰り返すが、Scene.1-21 にあるように、現代の若者は「見かけだけでは判断できない」、「見かけは不良っぽくてもそれだけじゃ」非行少年、不良とは言えない。むしろ、以下の Scene.1-22 にあるように、現在、「危ない」、「何かしそう」、「ブスッとやりそう」、「キレそう」という印象を受けるのは、昔の「ツッパリ」よりも、むしろ「おとなしい子」、「暗い子」、「ファミコンばかりやっついそう」な若者、「自分の世界だけになっちゃう子」と考えていることがうかがえる。

「Scene.1-22」 グループ 3

R1：今はじゃあ逆に悪いことしそうっていうのはどういう子なんですか。

S1：なんかやっぱ暗そうな…。

R2：ははは。

R1：なぜ暗そう？

S1：なんかほら、茶髪とか、こう見かけすごい子って、集団で何かするっていうのはあるかもしれないけど、例えばバイク乗って走り回るとか…その辺でたむろしてタバコ吸ったりだとかそういうことはあるかもしれないけれども、本当に犯罪みたいなことになっちゃうと…中にはグループで学校のガラス割るとか、その程度のことはよくありますけれども。

R1：うんうん。

S1：だけど、ぶすっとやっちゃうとかそこまでいっちゃうと、そういう子よりも、家でずっと子どもの頃ファミコンばかりやってたりとか。そういう子…

S2：友だちがいなかったとか結構今ありますよね。

S1：暴力的なゲームやったり…。

S2：語弊があるかもしれませんが、ちょっとおたくっぽい子というのは危ないっていうか…

S1：友だちをつくれなさそうな子と言うか…なんか色々家でやっても、友だちがいつも来てる子とかそういう子もいますよね。中には。でもなんか自分だけの世界に入っちゃっているという子とか。1回キレたら危なそうだなっていう子も。

S2：そう。

髪を染めたり、奇抜な服装をとったりする若者よりも、現代の大人が異端視する対象は、俗に「おたく」と称されるような、社会から孤立した若者である。このような大人の認識は、メディアを通して報道される少年犯罪に手を染める者が、一見おとなしそうな少女であったり、自室に閉じこもったりする若者であることにも関係しているのであろう。ただし、そのような若者でなくとも、大人が異端視する若者の行為は現在にもみられるようである。以下、Scene.1-23、Scene.1-24、Scene.1-25 から、もう少しみていきたい。

「Scene.1-23」 グループ 12

S1：何年か前は、茶髪とかピアスとかで始めたころは、それをする子は良くない行為をするよ

うな子が多かったけれど、今は、広まって、ファッションとして認められるようになったんじゃないかな。だから、大人も許容せざるをえないって言うか、茶髪でもやさしいとかピアス空けてても怖くないとか思うことが起きてきて、ファッションとして認められてきたんじゃないかな。

S2：家の子染めたいってゆつとたし、私が染めたげるよって言つとったかんじ？でも、長男のころは学生がやり始めのころやったし、ちょっと神経とがったわ。夏休み真っ青にしてきたんですよ。

S3：うちの子が「私、（髪を）青にしたらどうする？」って聞いてきたんですよ。とうとうやったかと思うかもしれんけど。それくらいの気持ちでいたいと思ってて。でも頼むから、それで学校行ってくれるなっていうか。

S1：夏休みくらいならねえ。

R：時と場所を選んでくれれば……？

S1&S2&S3：そうねえ。

[Scene.1-24] グループ 11

S2：人それぞれやと思うけど、僕はファッションやと思っているけどな。ガングロはね。

S1：ただ、ガングロもヤンキー座りも、道路のど真ん中で弱い人や女の人が通れないような行動になったら、非行の始まりなんやろなと思う。

R1：それは人に迷惑を掛けていることに気づかないということですか？

S1：そうそうそう。そりゃね、公園の隅っこでそんなことしていても、全然かまわないけど。

[Scene.1-25] グループ 11

R1：お酒とかタバコとかそのものが直接に非行や不良に関係するとは思われていないようですね。むしろどうやって飲むか、どこで飲むかとか…。

S2：タバコそのものはね。さっき言うた、その、タバコ吸ってる人間が集まって、集団で動いたりいじめたりするのが問題なんであって、タバコ吸うことそのものは、確かに犯罪行為ではあるけど、それだけじゃ、ね。

S2：うん。

Scene.1-23、Scene.1-24、Scene.1-25にあるように、大人は、単に髪を染めたり、「たむろ」したり、タバコを吸うといった現代の若者の行為については寛容である。しかし、そのような行為をなすことによって他者に対して迷惑がかかる場合は、その若者を異端視するようである。Scene.1-24では、「公園の隅っこでヤンキー座りをしている、かまわない」が、「人に迷惑をかけるようなところ」でそのような行為をしているのは、「非行の始まり」であると考えていることが示されている。同様に、Scene.1-25においても、「タバコを吸うという行為だけでは非行には見えない。タバコを吸う人が集まって行動したりいじめをしたりすることが非行に見える」と話している。

被調査者が若者であった頃に比べて、服装や髪型や喫煙などの行為自体を咎めるわけではない。ある部分、行為主体者である若者の自己責任に委ねているところがある。ただし、そのような行為がもとで、自身や社会の構成員の安全が危機に晒される可能性がある場合は、これを逸脱視するようである。歴史的変遷をたどってはいるが、若者の行為に対して、大人が「非行」としてラベルを貼り、異端視する社会的メカニズムがみてとれる。では、社会的に異端視される若者に対して、大人自身はどのように接しているのだろうか。家庭では、また、社会では、大人はどのように逸脱視される若者に接しているのだろうか。このような家庭・社会の若者に対する教育力については、第3節にまとめていく。なお、その際、被調査者が若者であった頃の家庭・社会の教育力と、現代の家庭・社会の教育力について比較検討しながら提示していく。